

平成24年度入学生対象

平成24年3月6日

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔教育学部第四類（生涯活動教育系）健康スポーツ系コース〕

プログラムの名称（和文）	健康スポーツ教育プログラム
（英文）	Health and Sports Sciences Education
1. プログラムの紹介と概要 本プログラムでは、健康やスポーツに関わる幅広い知識と高い実践力を備えた専門家（保健体育科教員やスポーツ指導者など）を育成することを目指している。そのために、体育科教育学、健康学、体育・スポーツ学などの各専門分野の学習を通して、生涯にわたる心身の健康の維持・増進やスポーツ活動についての科学的認識を深めるとともに、各種スポーツの指導・学習方法に関する理論にもとづく実践力と指導力を身につけることを課題としている。これらの学習を通して中学校・高等学校教員免許（保健体育）が取得でき、また各種の社会体育関係資格の受験資格を得ることができる。	
2. プログラムの開始時期とプログラム選択のための既修得要件（履修科目名及び単位数等） プログラムの開始（選択）時期は、1年次。	
3. プログラムの到達目標と成果 （1）プログラムの到達目標 本プログラムは、健康やスポーツに関する専門家として必要な能力の開発をめざす。 1) 保健体育科教員としての教育・研究能力を開発する。 2) 社会体育指導者として必要な基礎的な知識や指導力を獲得し、研究能力を開発する。 3) 1) 2) を含んだ幅広い知識と高い実践力を備えた健康・スポーツ関係の専門家を育成する。 （2）プログラムによる学習の成果 ○知識・理解 1) 学校体育とその教育における基本的知識と理解 2) 社会体育とその教育における基本的知識と理解 3) 健康とスポーツに関する1) 2) を含んだ幅広い知識と理解 ○知的能力・技能 1) 学校体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、批判的に検討できる。 2) 社会体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、批判的に検討できる。 3) 健康・スポーツに関する諸問題に関心を持ち、それらを研究することができる。 ○実践的能力・技能 1) 学校体育のカリキュラム（目標・内容・方法）を分析したり、デザインしたりすることができる。 2) 社会体育のカリキュラム（目標・内容・方法）を分析したり、デザインしたりすることができる。 3) 各種の運動指導場面において諸条件を考慮した実践的指導力を持っている。	

○総合的能力・技能

1) 個人あるいはグループで、健康やスポーツに関する研究や諸活動を企画・立案、実行することができる。

2) 健康・スポーツに関わる専門家として研究や諸活動でリーダーシップを発揮することができ、将来こうした領域に関連する一般企業への就職や、大学院への進学が可能な力量を持っている。

※ 体系的に理解できる図を別紙2として添付

4. 教育内容・構造と実施体制

(1) 学位の概要 (学位の種類, 必要な単位数)

本プログラムによって、学士(教育学)の学位が取得できる。必要な単位数は、教養教育44単位および専門教育84単位(専門基礎科目22単位、専門科目25単位、専門選択科目31単位、卒業研究6単位を含む)計128単位である。

(2) 得られる資格等

教育職員免許法に基づいて教職関係科目を併せて修得することにより、中学校教諭一種免許(保健体育)、高等学校教諭一種免許(保健体育)を取得できる。又、指定された科目を修得することにより日本体育協会公認「スポーツリーダー」「ジュニアスポーツ指導員」「スポーツプログラマー」、健康・体力づくり財団認定「健康運動実践指導者」の講習が免除され、資格認定試験の受験資格が取得できる。さらに、日本体育協会公認コーチ等の資格を取得するための基礎となる「共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の修了証を取得できる。

(3) プログラムの構造

※ 体系的に理解できる図を別紙2として添付

専門基礎科目は基本的に1、2年次に履修し、主として3年次に開講される専門科目につながるように構成されている。(2)で述べた教員免許関連科目や諸資格取得に関わる科目も4年間で履修する。

(4) 卒業論文(卒業研究) (位置付け, 配属方法・時期等)

卒業論文(卒業研究)は本プログラムの集大成であり、特定の研究課題に向け、健康やスポーツに関わる専門家としての力量をその課題解決に集約するものである。3年次後期開始時に研究分野と卒業論文指導教員を決め、指導教員の指導のもとで準備を進め、4年次で卒業論文を作成する。卒業論文指導教員の決定の条件は、原則として3年次後期末までに当該教員の授業(講義及び演習あるいは実験)の履修が修了していることである。研究テーマが決定した後、卒論テーマ発表、中間発表、最終発表が義務づけられる。

5. 授業科目及び授業内容

※ シラバスは、「Myもみじ」又は広島大学公式ウェブサイト「入学案内」を参照してください。

6. 教育・学習

(1) 教育方法・学習方法

プログラムが提供する各授業科目については、カリキュラム作成、教材開発、指導案作成などの実際的な課題遂行作業における実践的能力として、又、各種の運動指導場面における実践的指導能力として、獲得できるようにする。

(2) 学習支援体制

- 1) 4年間同じチューターに指導・支援を受け、3年次後期より卒論指導教員の指導・支援も受ける。
- 2) 本プログラムの実施は、主として健康スポーツ科学講座の教員が当たり、学習支援体制を作る。
- 3) 本プログラムの事務的支援は健康スポーツ科学講座事務室（教育学部B棟219）で行う。
- 4) 本プログラムを選択した学生は、学生研究室（教育学部B棟306）を利用できる。

7. 評価（試験・成績評価）

（1）到達度チェックの仕組み

○個人成績

- 1) 授業科目ごとの成績は、秀、優、良、可及び不可で判定する。
- 2) 授業科目ごとの成績は、所定の計算法により、GPAとして累積する。
- 3) 学年ごとにGPAを算出し、個人の基本成績レベルが確認できるようにする。
- 4) 各授業科目単位で、評価項目ごとに到達度を確定し、個々の達成水準を明示する。

○成績評価

- 1) 年次ごとに取得単位数と成績達成水準により、次年次への進級判断のめやすとする。
- 2) 未達成者には、問題点と課題が提示される。
- 3) 卒業については、これまでの成績、卒業要件単位数、評価項目ごとの到達度、卒業論文の成績などにより判定される。

（2）成績が示す意味

※ 別紙4（到達目標評価項目と評価基準の表）に記入

8. プログラムの責任体制と評価

（1）PDCA責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価 (check)・改善 (action)）

本プログラムは、主として教育学部の健康スポーツ科学講座のスタッフによって遂行される。その責任はプログラム責任者（講座主任）にある。PDCA責任体制は本プログラム委員会が行う。

（2）プログラムの評価

教育的効果と社会的効果の2つの観点から評価する。教育的評価では、学生の学習効果を判定する。社会的効果では、プログラムの学習結果の有効性を判定する。

○評価の実施方法

原則として入学して4年経た年次にプログラムの成果を評価する。教育的効果に関しては、学生の到達率による評価、及び教員グループによる総合的評価によって行う。社会的効果に関しては、学生の教員採用試験の合格率による評価、各種の社会体育関係資格の合格率、全体的な就職率などによって評価する。

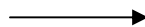
○学生へのフィードバック

プログラムの評価結果は、プログラム担当委員会において、プログラム内容の見直し、改善と共に、学生指導、各授業科目の効果を検討し、下学年のプログラム運営に反映させる。

※担当教員リストは、別紙5を参照。

プログラムの教育・学習方法

○ 知識・理解



身につく知識・技能・態度等
1) 学校体育とその教育における、基本的知識と理解
2) 社会体育とその教育における、基本的知識と理解
3) 健康やスポーツに関する1) 2) を含んだ幅広い知識と理解

教育・学習の方法
健康スポーツ系教育プログラムにおける専門基礎科目および専門科目が課す自己学習、課題、レポート作成などを通して、獲得できるようにする。
評価
1)～3) は、各授業科目で行う試験や課題やレポートを通して評価する。

○ 知的能力・技能



身につく知識・技能・態度等
1) 学校体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、批判的に検討できる。
2) 社会体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、批判的に検討できる。
3) 健康・スポーツに関する諸問題に関心を持ちそれらを研究することができる。

教育・学習の方法
プログラムが提供する各授業を通して、基礎的・基本的な情報を獲得すると共に、個人的研究およびグループ討議などにおける自己学習、課題把握、レポート作成を通して、獲得できるようにする。
評価
知的能力・技能は、学習結果としての知識・理解の獲得を方法的に支える能力であり、問題解決能力でもある。グループでの討議や試験・レポートなどによって評価する。

○ 実践的能力・技能



身につく知識・技能・態度等

- 1) 学校体育のカリキュラム（目標・内容・方法）を分析したり、デザインしたりすることができる。
- 2) 社会体育のカリキュラム（目標・内容・方法）を分析したり、デザインしたりすることができる。
- 3) 各種の運動指導場面において諸条件を考慮した実践的指導力を持っている。

教育・学習の方法

プログラムが提供する各授業科目については、カリキュラム作成、教材開発、指導案作成などの実際的な課題遂行作業における実践的能力として、又、各種の運動指導場面における実践的指導能力として、獲得できるようにする。

評価

特定の実践的課題（カリキュラムの作成・分析や教材開発、又、各種の運動指導など）の遂行過程やその結果で評価する。

○ 総合的能力・技能



身につく知識・技能・態度等

- 1) 個人あるいはグループで、健康やスポーツに関する諸活動を企画・立案、実行することができる。
- 2) 健康・スポーツに関わる専門家としてリーダーシップを発揮することができる。こうした領域に関連する一般企業への就職や、大学院への進学が可能な力量を持っている。

教育・学習の方法

プログラム全体を通して能力発達を計画するが、特に教養ゼミ、健康スポーツ総論、総合演習などを重点的科目とし、次第に特定の専門領域・専門科目に集約し、最終的に卒業研究にまとめる。

評価

上記の重点科目、卒業論文に対する評価、GPAなどを総合して評価する。

別紙2 主専攻プログラム モデル体系図

教育学部健康スポーツ系コースプログラム

(専門教育における) 学習の成果	教養教育 到達目標	1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
知識・理解	1) 学校体育とその教育における基本的知識と理解			スポーツトレーニング学(○)	学校保健(○)	スポーツ生理学(○)	スポーツ心理学(○)		
				救急看護法(○)	スポーツ社会学(○)	スポーツ医学(スポーツ栄養学を含む)(○)			
				公衆衛生学(○)	舞踊教育論(○)	スポーツ経営学(○)			
				バイオメカニクス(○)	体育科教育課程・教材構成論(○)	保健体育科教育方法・評価論(○)			
			体育科教育概論(○)	体育・スポーツ行政学(○)	運動技術論(○)				
					コーチング論(○)				
	2) 社会体育とその教育における基本的知識と理解	人類や社会が抱える歴史的・現代的課題(社会のしくみと科学の在り方、知の営みの意味、いのちの重み、多様な文化間の交流や対立、自然と共生する意義など)について、多角的な視点から説明できる。	平和科目(◎)	パッケージ別科目(○)	スポーツトレーニング学(○)	学校保健(○)	スポーツ生理学(○)	スポーツ心理学(○)	
			パッケージ別科目(○)	英語コミュニケーションⅡA(○)	総合科目(○)	スポーツ社会学(○)	スポーツ医学(スポーツ栄養学を含む)(○)		
			英語コミュニケーションⅠA(○)	英語コミュニケーションⅡB(○)	救急看護法(○)	舞踊教育論(○)	スポーツ経営学(○)		
			英語コミュニケーションⅠB(○)	ベーシック外国語Ⅱ(○)	公衆衛生学(○)	体育科教育課程・教材構成論(○)	保健体育科教育方法・評価論(○)		
			ベーシック外国語Ⅰ(○)	領域科目(△)	バイオメカニクス(○)	体育・スポーツ行政学(○)	運動技術論(○)		
			領域科目(△)		体育科教育概論(○)	総合科目(○)	コーチング論(○)		
3) 健康やスポーツに関する1)1)を含んだ幅広い知識と理解	1. 多角的な視点から平和について考え、自分の意見を述べることができる。 2. 理念と現実の葛藤を含め、平和を妨げる種々の要因とそこでの複雑な様相について理解し、説明できる。	英語コミュニケーションⅠA(○)	英語コミュニケーションⅡA(○)	スポーツトレーニング学(○)	学校保健(○)	スポーツ生理学(○)	スポーツ心理学(○)		
		英語コミュニケーションⅠB(○)	英語コミュニケーションⅡB(○)	救急看護法(○)	スポーツ社会学(○)	スポーツ医学(スポーツ栄養学を含む)(○)			
		ベーシック外国語Ⅰ(○)	ベーシック外国語Ⅱ(○)	公衆衛生学(○)	舞踊教育論(○)	スポーツ経営学(○)			
				バイオメカニクス(○)	体育科教育課程・教材構成論(○)	保健体育科教育方法・評価論(○)			
				体育科教育概論(○)	体育・スポーツ行政学(○)	運動技術論(○)			
						コーチング論(○)			
知的能力・技能	1) 学校体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、批判的に検討できる。						スポーツ経営学演習(○)	体育科教育実践演習(○)	
							体育科教育概論演習(○)		
							舞踊教育論演習(○)		
							スポーツ生理学実験(○)		
						スポーツ医学実験(○)			
						スポーツ社会学演習(○)			
						運動技術論実験(○)			
						コーチング論実験(○)			
						スポーツトレーニング学実験(○)			
						体育科教育課程・教材構成論演習(○)			
	2) 社会体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、批判的に検討できる。	人類や社会が抱える歴史的・現代的課題(社会のしくみと科学の在り方、知の営みの意味、いのちの重み、多様な文化間の交流や対立、自然と共生する意義など)について、多角的な視点から説明できる。	スポーツ実習科目(○)	スポーツ実習科目(○)				スポーツ経営学演習(○)	体育科教育実践演習(○)
								体育科教育概論演習(○)	
							舞踊教育論演習(○)		
							スポーツ生理学実験(○)		
					スポーツ医学実験(○)				
					スポーツ社会学演習(○)				
					運動技術論実験(○)				
					コーチング論実験(○)				
					スポーツトレーニング学実験(○)				
					体育科教育課程・教材構成論演習(○)				
2) 健康やスポーツに関する諸問題に関心をもち、それらを研究することができる。	1. 体力・健康づくりの必要性を科学的に説明できる。 2. スポーツの実践を通じて、生涯にわたってスポーツを楽しむ意義や、マナー・協調性などの重要性を理解し、説明できる。	スポーツ実習科目(○)	スポーツ実習科目(○)				スポーツ経営学演習(○)	体育科教育実践演習(○)	
							体育科教育概論演習(○)		
							舞踊教育論演習(○)		
							スポーツ生理学実験(○)		
					スポーツ医学実験(○)				
					スポーツ社会学演習(○)				
					運動技術論実験(○)				
					コーチング論実験(○)				
					スポーツトレーニング学実験(○)				
					体育科教育課程・教材構成論演習(○)				

実践的能力・技能	1) 学校体育のカリキュラム(目標・内容・方法)を分析したり、デザインしたりすることができる。	陸上競技Ⅰ(○)	器械運動Ⅰ(○)	舞踊Ⅰ(○)	野外活動BⅠ(スキー)(○)			
		武道BⅠ(剣道)(○)	球技CⅠ(バスケットボール)(○)	水泳Ⅰ(○)				
		球技AⅠ(バレーボール)(○)	トレーニング実習Ⅰ(○)	武道AⅠ(柔道)(○)				
	2) 社会体育のカリキュラム(目標・内容・方法)を分析したり、デザインしたりすることができる。	球技BⅠ(サッカー)(○)		球技DⅠ(テニス)(○)				
		野外活動AⅠ(登山・キャンプ)(○)		アクアスポーツ(○)				
		陸上競技Ⅰ(○)	器械運動Ⅰ(○)	舞踊Ⅰ(○)	野外活動BⅠ(スキー)(○)			
	3) 各種の運動指導場面において諸条件を考慮した実践的指導力を持っている。	武道BⅠ(剣道)(○)	球技CⅠ(バスケットボール)(○)	水泳Ⅰ(○)				
		球技AⅠ(バレーボール)(○)	トレーニング実習Ⅰ(○)	武道AⅠ(柔道)(○)				
		球技BⅠ(サッカー)(○)		球技DⅠ(テニス)(○)				
野外活動AⅠ(登山・キャンプ)(○)			アクアスポーツ(○)					
			球技BⅡ(サッカー)(○)	陸上競技Ⅱ(○)	球技AⅡ(バレーボール)(○)			
			野外活動AⅡ(登山・キャンプ)(○)	器械運動Ⅱ(○)	水泳Ⅱ(○)			
総合的能力・技能	1) 個人あるいはグループで、健康やスポーツに関する研究や諸活動を企画・立案、実行することができる。	教養ゼミ(◎)	情報科目(△)	英語コミュニケーションⅢ(○)				
		情報科目(△)	健康・スポーツ総論(◎)					
	2) 健康やスポーツに関わる専門家として、研究や諸活動でリーダーシップを発揮することができる。	1. 情報を活用するためのモラルと社会的課題について理解し、説明できる。	教養ゼミ(◎)					卒業論文(◎)
		2. 情報に関する基礎的知識・技術・態度を学び、情報の処理や受発信を適切に行うことができる。						
			教養科目(△)	専門科目(◎)	専門科目(○)	専門科目(○)	専門科目(◎)	卒業論文(◎)
			教養科目(△)					
		教養科目	専門基礎	専門科目	卒業論文	(◎)必修科目	(○)選択必修科目 (△)選択科目	

教 養 教 育 科 目 履 修 基 準 表

第四類 健康スポーツ系コース（健康スポーツ教育プログラム）

区分	科目区分	要修 得単 位数	授業科目等	単位 数	履修区分	履修セメスター(注1)													
						1年次		2年次		3年次		4年次							
						1セメ	2セメ	3セメ	4セメ	5セメ	6セメ	7セメ	8セメ						
教養 コア 科目	教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	○													
	平和科目	2		2	選択必修	○	○												
	パッケージ別科目	6	決定された1パッケージから3科目	2	選択必修	○	○												
	総合科目	2		2	選択必修			○	○										
	共通科目	英語 (注2)	(0)	コミュニケーション基礎 I	1	自由選択	○												
				コミュニケーション基礎 II	1			○											
			4	コミュニケーション I (注3)	コミュニケーション I A	1	選択必修	○											
					コミュニケーション I B	1		○											
				コミュニケーション II (注3)	コミュニケーション II A	1			○										
					コミュニケーション II B	1			○										
		2	コミュニケーション III	コミュニケーション III A	1	選択必修													
				コミュニケーション III B	1				○	○									
				コミュニケーション III C	1														
		上記4科目から2科目以上																	
	4	初修外国語 (ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語、アラビア語のうちから1言語選択)	ベーシック外国語 I から2科目	1	選択必修	○													
ベーシック外国語 II から2科目			1			○													
2	(注4)	2	2	選択必修	○														
(18)	すべての領域から(注5)	1又は2	2	選択必修	○	○	○	○											
2		1又は2	2	選択必修	○	○													
(0)		1~3	3	自由選択	○	○	○	○											
計		44																	

注1：○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2：短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「マルチメディア英語演習」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細については、学生便覧の教養教育の英語に関する項及び「外国語技能検定試験等による単位認定の取扱いについて」を参照すること。

注3：時間割編成の都合上、1セメスターは「コミュニケーション I A」及び「コミュニケーション I B」が、2セメスターは「コミュニケーション II A」及び「コミュニケーション II B」が指定されている。

注4：1セメスター開設の「情報活用基礎」を履修すること。なお、「情報活用基礎」の単位を修得できなかった場合は、2セメスター開設の「情報活用演習」を履修することができる。

注5：・教育職員免許状を取得するためには、「日本国憲法」の2単位を修得する必要がある。

・修得したコミュニケーション基礎の単位を算入することができる。

・修得した基盤科目の単位は、4単位まで算入することができる。

学部履修基準

第四類（生涯活動教育系）

○ 健康スポーツ系コース（健康スポーツ教育プログラム）

科目区分等			要修得単位数	開設学部	
教 養 教 育	教養コア科目	教 養 ゼ ミ	2	44 総合科学部ほか	
		平 和 科 目	2		
		パ ッ ケ ー ジ 別 科 目	6		
		総 合 科 目	2		
	共通科目	外国語科目	英 語		6
			初修外国語		4
		情 報 科 目	2		
		領 域 科 目	(18)		
		健 康 ス ポ ー ツ 科 目	2		
	基 盤 科 目		(0)		
専 門 教 育	専 門 基 礎 科 目		22	84 教育学部ほか	
	専 門 科 目		25		
	専 門 選 択 科 目		31		
	卒 業 研 究		6		
合 計			128		

<履修上の注意>

『専門選択科目』欄の副専攻プログラム及び特定プログラムの修得単位数は、31単位まで認める。

専門教育科目履修基準

第四類 健康スポーツ系コース (健康スポーツ教育プログラム)

○印は必修

区分	授業科目	開単位 設数	学期別週授業時数								免許法該当科目	備考		
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ				
専門 基礎 科目	健康・スポーツ総論	②		2										
	救急看護法	2			2							学校保健		
	公衆衛生学	2			2							衛生学及び公衆衛生学		
	バイオメカニクス	2			2							生理学		
	生涯活動教育論	②				2							類共通科目	
	体育科教育概論	2			2							教科の指導法 (保健体育)		
	体育科教育課程・教材構成論	2				2						〃		
	体育・スポーツ行政学	2				2						〔体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学〕及び運動学		
	陸上競技 I	1	2									体育実技		
	器械運動 I	1		2								〃		
	舞踊 I	1			2							〃		
	水泳 I	1			2							〃		
	武道A I (柔道)	1			2							〃		
	武道B I (剣道)	1	2									〃		
	球技A I (バレーボール)	1	2									〃		
	球技B I (サッカー)	1	2									〃		
	球技C I (バスケットボール)	1		2								〃		
	球技D I (テニス)	1			2							〃		
	アクアスポーツ	1			2							〃		
	野外活動A I (登山・キャンプ)	1	2									〃		
野外活動B I (スキー)	1				2						〃			
トレーニング実習 I	1		2								〃			
専門 科目	スポーツ生理学	2					2					生理学		
	スポーツ生理学実験	1						2				〃		
	学校保健	2				2						学校保健		
	スポーツ医学 (スポーツ栄養学を含む)	2					2					衛生学及び公衆衛生学		
	スポーツ医学実験	1						2				〃		
	スポーツ社会学	2				2						〔体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学〕及び運動学		
	スポーツ社会学演習	1						2				〃		
	スポーツ経営学	2					2					〃		

○印は必修

区分	授業科目	開単 位 設 数	学期別週授業時数								免許法該当科目	備考
			1 セ メ	2 セ メ	3 セ メ	4 セ メ	5 セ メ	6 セ メ	7 セ メ	8 セ メ		
専 門 科 目	スポーツ経営学演習	1						2			〔体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学〕及び運動学	
	スポーツ心理学	2						2			〃	
	体育科教育概論演習	1						2			教科の指導法（保健体育）	
	体育科教育課程・教材構成論演習	1						2			〃	
	体育科教育実践演習	1							2		〃	
	保健体育科教育方法・評価論	2					2				〃	
	舞踊教育論	2				2					〔体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学〕及び運動学	
	舞踊教育論演習	1						2			〃	
	運動技術論	2					2				〃	
	運動技術論実験	1						2			〃	
	コーチング論	2					2				〃	
	コーチング論実験	1						2			〃	
	スポーツトレーニング学	2			2						〃	
	スポーツトレーニング学実験	1						2			〃	
	陸上競技Ⅱ	1				2					体育実技	
	器械運動Ⅱ	1				2					〃	
	舞踊Ⅱ	1				2					〃	
	水泳Ⅱ	1					2				〃	
	球技AⅡ（バレーボール）	1					2				〃	
	球技BⅡ（サッカー）	1			2						〃	
	球技CⅡ（バスケットボール）	1				2					〃	
	球技DⅡ（テニス）	1					2				〃	
	野外活動AⅡ（登山・キャンプ）	1			2						〃	
	武道AⅡ（柔道）	1					2				〃	
武道BⅡ（剣道）	1			2						〃		
トレーニング実習Ⅱ	1				2					〃		

到達目標評価項目と評価基準の表

○ 知識・理解

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている(Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修シメサケ
1) 学校体育とその教育における基本的知識と理解	中等学校を中心とした学校体育を十分理解しており、その問題点や課題に対する改善策を提案できる。	中等学校を中心とした学校体育に関する知識や理解を持ち、その問題点や課題を理解、指摘できる。	中等学校を中心とした学校体育に関する基本的な理解ができています。	スポーツトレーニング学 (3) 救急看護法 (3) 公衆衛生学 (3) バイオメカニクス (3) 体育科教育概論 (3) 学校保健 (4) スポーツ社会学 (4) 舞踊教育論 (4) 体育科教育課程・教材構成論 (4) 体育・スポーツ行政学 (4) スポーツ生理学 (5) スポーツ医学(スポーツ栄養学を含む) (5) スポーツ経営学 (5) 保健体育科教育方法・評価論 (5) 運動技術論 (5) コーチング論 (5) スポーツ心理学 (6)
2) 社会体育とその教育における基本的知識と理解	社会体育を十分理解しており、その問題点や課題に対する改善策を提案できる。	社会体育に関する基本的な理解を持ち、その問題点や課題を理解、指摘できる。	社会体育に関する基本的な理解ができています。	スポーツトレーニング学 (3) 救急看護法 (3) 公衆衛生学 (3) バイオメカニクス (3) 体育科教育概論 (3) 学校保健 (4) スポーツ社会学 (4) 舞踊教育論 (4) 体育科教育課程・教材構成論 (4) 体育・スポーツ行政学 (4) スポーツ生理学 (5) スポーツ医学(スポーツ栄養学を含む) (5) スポーツ経営学 (5) 保健体育科教育方法・評価論 (5) 運動技術論 (5) コーチング論 (5) スポーツ心理学 (6)
3) 健康やスポーツに関する1) 2) を含んだ幅広い知識と理解	健康やスポーツに関する幅広い知識と理解を持ち、総合的・批判的に検討できる。	健康やスポーツに関する基本的な事項に対する知識と理解を持ち、その問題点や課題を理解、指摘できる。	健康やスポーツに関する基本的な事項に対し、理解ができています。	スポーツトレーニング学 (3) 救急看護法 (3) 公衆衛生学 (3) バイオメカニクス (3) 体育科教育概論 (3) 学校保健 (4) スポーツ社会学 (4) 舞踊教育論 (4) 体育科教育課程・教材構成論 (4) 体育・スポーツ行政学 (4) スポーツ生理学 (5) スポーツ医学(スポーツ栄養学を含む) (5) スポーツ経営学 (5) 保健体育科教育方法・評価論 (5) 運動技術論 (5) コーチング論 (5) スポーツ心理学 (6)

○ 知的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修シメタケ
1) 学校体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、批判的に検討できる。	中等学校を中心とした学校体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、総合的・批判的に検討でき、改善策を提案できる。	中等学校を中心とした学校体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマに適切にまとめ、検討できる。	中等学校を中心とした学校体育に関する資料・情報を収集し、関連づけて考えることができる。	スポーツ生理学実験 (5) スポーツ医学実験 (5) スポーツ社会学演習 (5) 体育科教育実践演習 (5) スポーツ経営学演習 (6) 体育科教育概論演習 (6) 舞踊教育論演習 (6) 運動技術論実験 (6) コーチング論実験 (6) スポーツトレーニング学実験 (6) 体育科教育課程・教材構成論演習 (6)
2) 社会体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、批判的に検討できる。	社会体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、総合的・批判的に検討でき、改善策を提案できる。	社会体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマに適切にまとめ、検討できる。	社会体育に関する資料・情報を収集し、関連づけて考えることができる。	スポーツ生理学実験 (5) スポーツ医学実験 (5) スポーツ社会学演習 (5) 体育科教育実践演習 (7) スポーツ経営学演習 (6) 体育科教育概論演習 (6) 舞踊教育論演習 (6) 運動技術論実験 (6) コーチング論実験 (6) スポーツトレーニング学実験 (6) 体育科教育課程・教材構成論演習 (6)
3) 健康やスポーツに関する諸問題に関心を持ち、それらを研究することができる。	健康やスポーツに関する諸問題に関心を持ち、それらを一定の視点から総合的・批判的に研究し、解決策を提案することができる。	健康やスポーツに関する諸問題に関心を持ち、それらを一定の視点から適切に研究することができる。	健康やスポーツに関する諸問題に関心を持ち、それらを研究することができる。	スポーツ生理学実験 (5) スポーツ医学実験 (5) スポーツ社会学演習 (5) 体育科教育実践演習 (7) スポーツ経営学演習 (6) 体育科教育概論演習 (6) 舞踊教育論演習 (6) 運動技術論実験 (6) コーチング論実験 (6) スポーツトレーニング学実験 (6) 体育科教育課程・教材構成論演習 (6)

○ 実践的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修修マター
1) 学校体育のカリキュラム(目標・内容・方法)を分析したり、デザインしたりすることができる。	中等学校を中心とした学校体育に関するカリキュラム(目標・内容・方法)を総合的・批判的に分析したり、デザインとして提案することができる。	中等学校を中心とした学校体育に関するカリキュラム(目標・内容・方法)を適切に分析したり、デザインしたりすることができる。	中等学校を中心とした学校体育に関するカリキュラム(目標・内容・方法)を分析したり、デザインしたりすることができる。	陸上競技Ⅰ(1) 武道BⅠ(剣道)(1) 球技AⅠ(バレーボール)(1) 球技BⅠ(サッカー)(1) 野外活動AⅠ(登山・キャンプ)(1) 器械運動Ⅰ(2) 球技CⅠ(バスケットボール)(2) トレーニング実習Ⅰ(2) 舞踊Ⅰ(3) 水泳Ⅰ(3) 武道AⅠ(柔道)(3) 球技DⅠ(テニス)(3) アクアスポーツ(3) 野外活動BⅠ(スキー)(4)
2) 社会体育のカリキュラム(目標・内容・方法)を分析したり、デザインしたりすることができる。	社会体育のカリキュラム(目標・内容・方法)を総合的・批判的に分析したり、デザインとして提案することができる。	社会体育のカリキュラム(目標・内容・方法)を適切に分析したり、デザインしたりすることができる。	社会体育のカリキュラム(目標・内容・方法)を分析したり、デザインしたりすることができる。	陸上競技Ⅰ(1) 武道BⅠ(剣道)(1) 球技AⅠ(バレーボール)(1) 球技BⅠ(サッカー)(1) 野外活動AⅠ(登山・キャンプ)(1) 器械運動Ⅰ(2) 球技CⅠ(バスケットボール)(2) トレーニング実習Ⅰ(2) 舞踊Ⅰ(3) 水泳Ⅰ(3) 武道AⅠ(柔道)(3) 球技DⅠ(テニス)(3) アクアスポーツ(3) 野外活動BⅠ(スキー)(4)
3) 各種の運動指導場面において諸条件を考慮した実践的指導力を持っている。	各種の運動指導場面において諸条件を十分に考慮した高い実践的指導力を持っている。	各種の運動指導場面において諸条件を考慮した実践的指導力を持っている。	各種の運動指導場面において実践的指導力を持っている。	球技BⅡ(サッカー)(3) 野外活動AⅡ(登山・キャンプ)(3) 武道BⅡ(剣道)(3) 陸上競技Ⅱ(4) 器械運動Ⅱ(4) 舞踊Ⅱ(4) 球技CⅡ(バスケットボール)(4) トレーニング実習Ⅱ(4) 球技AⅡ(バレーボール)水泳Ⅱ(5) 球技DⅡ(テニス)(5) 武道AⅡ(柔道)(5)

○ 総合的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修シメス
1) 個人あるいはグループで、健康やスポーツに関する研究や諸活動を企画・立案、実行することができる。	個人あるいはグループで、健康やスポーツに関する研究や諸活動を総合的・成功的に企画・立案、実行することができる。	個人あるいはグループで、健康やスポーツに関する研究や諸活動を適切に企画・立案、実行することができる。	個人あるいはグループで、健康やスポーツに関する研究や諸活動を企画・立案、実行することができる。	健康・スポーツ総論 (2)
2) 健康やスポーツに関わる専門家として、研究や諸活動でリーダーシップを発揮することができる。	健康やスポーツに関わる専門家として、研究や諸活動で適切なリーダーシップを十分発揮することができる。	健康やスポーツに関わる専門家として、研究や諸活動でリーダーシップを発揮することができる。	健康やスポーツに関わる専門家として、研究や諸活動に参加することができる。	卒業論文 (8)

担当教員リスト

担当教員名	担当授業科目等	備考
上田 毅	担当授業科目：教養ゼミ 健康スポーツ総論 教職実践演習（中・高） 保健体育科教育方法・評価論 バイオメカニクス スポーツ生理学 スポーツ生理学実験 球技CⅠ（バスケットボール） 球技CⅡ（バスケットボール） 卒業論文 研究室の場所：教育学部B棟108 E-mail アドレス：	オムニバス形式 オムニバス形式 オムニバス形式 オムニバス形式
黒川隆志	担当授業科目：教養ゼミ 健康スポーツ総論 教職実践演習（中・高） 保健体育科教育方法・評価論 スポーツトレーニング学 スポーツトレーニング学実験 水泳Ⅰ 水泳Ⅱ アクアスポーツ 卒業論文 研究室の場所：教育学部B棟212 E-mail アドレス：	オムニバス形式 オムニバス形式 オムニバス形式 オムニバス形式
東川安雄	担当授業科目：教養ゼミ 健康スポーツ総論 教職実践演習（中・高） スポーツ社会学 スポーツ社会学演習 陸上競技Ⅰ 陸上競技Ⅱ 野外活動AⅠ（登山・キャンプ） 野外活動AⅡ（登山・キャンプ）	オムニバス形式 オムニバス形式 オムニバス形式

	<p>野外活動B I (スキー) 卒業論文</p> <p>研究室の場所：教育学部B棟303</p> <p>E-mail アドレス：</p>	
松尾千秋	<p>担当授業科目：教養ゼミ 健康スポーツ総論 教職実践演習(中・高) 舞踊教育論 舞踊教育論演習 舞踊 I 舞踊 II 卒業論文</p> <p>研究室の場所：教育学部B棟213</p> <p>E-mail アドレス：</p>	<p>オムニバス形式 オムニバス形式 オムニバス形式</p>
石井良昌	<p>担当授業科目：教養ゼミ 健康スポーツ総論 教職実践演習(中・高) スポーツ医学(栄養学を含む) スポーツ医学実験 公衆衛生学 学校保健 卒業論文</p> <p>研究室の場所：教育学部B棟103</p> <p>E-mail アドレス：</p>	<p>オムニバス形式 オムニバス形式 オムニバス形式</p>
沖原 謙	<p>担当授業科目：教養ゼミ 健康スポーツ総論 教職実践演習(中・高) スポーツ経営学 スポーツ経営学演習 球技B I(サッカー) 球技B II(サッカー) 卒業論文</p> <p>研究室の場所：教育学部B棟302</p> <p>E-mail アドレス：</p>	<p>オムニバス形式 オムニバス形式 オムニバス形式</p>

<p>金丸 純二</p>	<p>担当授業科目：教養ゼミ 健康スポーツ総論 教職実践演習（中・高） 体育科教育実践演習 体育科教育概論 体育科教育概論演習 卒業論文</p> <p>研究室の場所：教育学部B棟305</p> <p>E-mail アドレス：</p>	<p>オムニバス形式 オムニバス形式 オムニバス形式</p>
<p>草間益良夫</p>	<p>担当授業科目：教養ゼミ 健康スポーツ総論 教職実践演習（中・高） 運動技術論 運動技術論実験 武道B I（剣道） 武道B II（剣道） 卒業論文</p> <p>研究室の場所：教育学部B棟208</p> <p>E-mail アドレス：</p>	<p>オムニバス形式 オムニバス形式 オムニバス形式</p>
<p>出口達也</p>	<p>担当授業科目：教養ゼミ 健康スポーツ総論 教職実践演習（中・高） コーチング論 コーチング論実験 武道A I（柔道） 武道A II（柔道） トレーニング実習 I トレーニング実習 II 卒業論文</p> <p>研究室の場所：教育学部B棟203</p> <p>E-mail アドレス：</p>	<p>オムニバス形式 オムニバス形式 オムニバス形式</p>
<p>岩田昌太郎</p>	<p>担当授業科目：教養ゼミ 健康スポーツ総論 教職実践演習（中・高） 保健体育科教育方法・評価論 体育科教育課程・教材構成論</p>	<p>オムニバス形式 オムニバス形式 オムニバス形式 オムニバス形式</p>

	<p>体育科教育課程・教材構成論演習 器械運動Ⅰ 器械運動Ⅱ 卒業論文</p> <p>研究室の場所：教育学部B棟310</p> <p>E-mail アドレス：</p>	
國木孝治	<p>担当授業科目：教養ゼミ 健康スポーツ総論 教職実践演習（中・高）</p> <p>研究室の場所：教育学部B棟207</p> <p>E-mail アドレス：</p>	<p>オムニバス形式 オムニバス形式 オムニバス形式</p>
金 炫勇	<p>担当授業科目：教養ゼミ 健康スポーツ総論 教職実践演習（中・高）</p> <p>研究室の場所：教育学部B棟204</p> <p>E-mail アドレス：</p>	<p>オムニバス形式 オムニバス形式 オムニバス形式</p>
平松 携	<p>担当授業科目：体育・スポーツ行政学</p> <p>研究室の場所：</p> <p>E-mail アドレス：</p>	
田村 進	<p>担当授業科目：スポーツ心理学</p> <p>研究室の場所：</p> <p>E-mail アドレス：</p>	
橋原孝博	<p>担当授業科目：球技AⅠ（バレーボール） 球技AⅡ（バレーボール）</p> <p>研究室の場所：</p> <p>E-mail アドレス：</p>	
武田守弘	<p>担当授業科目：球技DⅠ（テニス） 球技DⅡ（テニス）</p> <p>研究室の場所：</p> <p>E-mail アドレス：</p>	